

## 特別賞

### 自然と動物、それから私

青山小学校 大橋 彩里

私の洋服は土と水でぐちゃぐちゃ。ついでに息も切れてきた。でも、私達は恵まれている。なぜなら、都会の真ん中にある青山小学校の屋上で里山を作っている。都会に少しでも緑があった方が良かった。屋上では、今冬野菜を育てている。私達の班はニンジン、ホウレンソウ、大根、カブ、カリフラワーがたくさん芽を出している。その芽は、まるで里山を作り始めた私達のようにであった。

里山を屋上に作ることは、正直言って、わくわくする。だって、命がたくさんある。だから、友達がいっぱいできる。野菜たちはもちろん、花のみつを吸いに来る虫たちや、そこらへんに生えている雑草たち。いっしょにおしゃべりできなくたって、みーんなみんな、友達。私は、里山で野菜を育てに来るのもそうだけど、友達に会いに来る意味でも、里山に来ている。

私達には、大先輩が何人もいる。無農薬有機の野菜にこだわる神保シェフ。千葉県あさひ市で有機無農薬農業をしている常世田さん。そして、水耕栽培農業をしている、浪川さん。この人たちはみんな、「食と環境」についてや、「農

業」について、とても詳しい。何か分からないことがあると、質問した答えよりさらに詳しく教えてくれる。例えば、食料自給率を上げるために、料理する食材は全て日本の決まった農家の人の物を使うとか、スローフードは、ゆっくり会話ができるし、おいしい気持ちになれるから大切だなど。とにかくこの人たちがいないと里山ができる自信が持てない。

さつき友達と言った、虫や雑草たちは、せつかく大切に育てた野菜たちを敵にすることもある。それは、葉を穴だらけにしたり、土から養分を吸い取ってしまったりするからだ。でも、すぐに仲直り。

「これからも受粉をよろしくね。」  
たまに私は虫たちにそうお願いする。歌で「友達はいいいんだ」というものがあるだろう。その歌はまさに私と植物、動物の関係を物語っている。

私たちは今、社会で「食と環境」について勉強している。日本は現在、食料自給率が先進国の中で特に低い状況だ。だから私は、里山でたくさん野菜を作って、多くの人に買ってもらいたい。そして、フードマイレージをほんの少しでも下げて、お客様の笑顔を少しでも増やしたいと考えている。

私は里山に出会っていろいろな生き物とふれあったことで考えた。今、地球温暖化がどんどん進んでいる。それは、自然が減り、機械化が進んでいる。とても悪い状況におちいつているからだ。それをくいとめるには、都会に少しで

も緑を増やすことが大切だと思う。それを考えると、私たちの里山プロジェクトはとっても重要だと分かった。緑を増やし、守っていききたいと思う。